

ごあいさつ



日本WHO協会 業務執行理事
生産技術振興協会 執行理事
異 昭夫

地球的に考え、地域的に行動する Think Globally, Act Locally.

地球規模で考えて、地域で行動しよう

これは持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）の合言葉です。当協会はこれまで国際的視野で健康保健に関する様々な情報を発信して参りました。これに併せて、足元の大阪市民をはじめ地域の市民の方々にもユニバーサルヘルスカバレッジの重要性を直接訴えかけていくことも大切だと考えています。医療従事者を励ます事業などは、当協会が地域の人々により広く呼び掛けることにより、存在意義が認知され、より多くの理解者・連帯者をえることに繋がることを願っています。健康福祉の増進を実現するために、私達一人ひとりが現代社会のユニバーサルヘルスカバレッジを自らの問題として考え、身近な暮らしを結びつけて、よりよい社会づくりに参加する機運を高め、人財を育てる教育や学習活動が重要であるとして、当協会のKGH（関西グローバルヘルスの集い）という勉強会が関西のリーダーとなって取り組み始めています。

グローバルな信頼と団結を

これは、ユヴァル・ノア・ハラリ氏の言葉です。新型コロナウイルスによる負の影響がなかなか収まらず、各国が独自の政策・方針を取り始めています。流行している国では地域が封鎖され、入国や移動が制限されています。身近な例では、台湾大学で教鞭をとっておられる日本の先生方は半年以上帰国されていません。

新型コロナウイルスの流行をグローバル化のせいにし、『この種の感染爆発が再び起こるのを防ぐためには、脱グローバル化するしかない』と言う動きが始まっています。しかし、この感染症を封じ込めるには短期の隔離は不可欠だとはいえ、長期の孤立主義政策は経済の崩壊につながるだけで、真の感染症対策にはならないように考えています。

感染症の流行への対抗手段は、分断ではなく連帯が必要です。ユヴァル・ノア・ハラリ氏は彼の著書で「人類はコロナウイルスといかに闘うべきか—今こそグローバルな信頼と団結を」と述べています。当協会は今後もグローバルな信頼と団結につながるような国際的活動とともに、地域での「目に見える」活動にも強化してゆく所存です。共感頂ける会員のご紹介をお願いいたします。

2021年4月